

## あとがき

平成 30 年度から令和 3 年度を対象とする自己点検・評価実施報告書は、総合科学部評価委員会（丸田孝志，ヴィレヌーヴ真澄美，大石のぞみ（支援室長），井上永幸，阿部誠，長田浩彰，白川俊之，宗尻修治）と総合科学系支援室（総務担当）を中心として令和 4 年 5 月に着手し、この度ようやく完成することができました。本報告書の大部分は、総合科学研究科教務委員会，学部教務委員会，学部入学試験委員会，旧 21 世紀科学プロジェクト委員会などの多くの先生方に原稿の執筆をお願いしました。また，教育活動，研究活動，組織運営などに関する多くのデータ収集と整理を総合科学系支援室の方々をお願いしました。これら多くの方々のご協力のおかげで，令和 4 年度内に作成を完了することができました。

本報告書では，平成 30 年度の国際共創学科の創設，令和 2 年度の間人社会科学研究所・先進理工系科学研究所の創設による総合科学研究科の学生募集停止に伴い，従来の構成を若干変更しています。また，国際共創学科の完成年後に点検・評価を行うため，従来の 3 年ごとの報告書の刊行を 1 年遅らせて，4 年目での刊行としました。学部については対象となる 4 年間に行われた 2 学科 2 プログラムの教育活動，研究活動，地域貢献・情報発信及び管理・運営などについて総括しています。大学院については，基本的には学生募集停止までの 2 年間の状況を総括しましたが，学生の動向については，4 年間を対象としています。また，旧研究科において総合科学的な教育と研究を促進してきた総合科学推進プロジェクトは，学部を引き継がれて，着実に成果を積み重ねてきたことが示されています。同じく研究科において，総合科学の可能性を開拓してきた 21 世紀科学プロジェクトは研究科の学生募集停止に伴い終了しましたが，その成果も収録しました。

学部・研究科の大きな再編が重なった今回の点検・評価の対象期間中には，平成 30 年度には 10 年ぶりとなる学外有識者による評価を受け，さらに令和 2 年度には「第 3 期中期計画・目標」についての法人 4 年目評価も受けましたが，本報告書に示されたような多くの意欲的な取り組みが高く評価されています。来年度は大学法人の認証評価が控えています。本報告書が今後の発展に役立つことを願っています。

最後に本報告書の作成にあたり，資料収集から原稿執筆までご協力くださった多くの教職員の方々に厚く御礼申し上げます。

令和 5 年 1 月

広島大学総合科学部評価委員会

委員長 丸田 孝志